



宗岡二中だより 12月号



平成30年12月3日（月）

志木市下宗岡 4-1-10 ☎048-472-1516

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

いつも誰かが見てござる

校長 滝沢 慎

私には、女、男、男の順に子供が3人います。上の2人は、大学生。一番下は、高校1年生です。親としては、同じように育てているつもりですが、三者三様、違いがあります。（ちなみに3人は、血液型も違います）

先日、妻から長男が、うそをついて出かけたとの話がありました。アルバイトだと偽って、韓流グループのコンサートに行ったとのことでした。妻は、コンサートに行くのは構わないが、うそをつくのが許せない、うそをついて、ごまかすのが、当たり前になってしまうと言います。息子二人は、父親が担当だから、私から、話をしてもらいたいと迫ります。長男とすれば、いろいろと聞かれることが面倒だったのかもしれませんが、しかし、うそをつくことに関しては、妻が言うとおりで。

以前の日本では、うそをつくことについて、いくつかの言葉が日常よく語られていました。

一つは、「うそをついたら、『えんま様』に舌を抜かれる」という話。

もう一つは、「お天道様はいつも見ているよ」「お天道様の前で、はずかしいことはするな」でした。

私たちは、「日本人」というくらいですから、太陽とは深い関係のある民族です。太陽の子ども、太陽の民族という解釈がで

きるかもしれません。太陽の下で明るく、元気よく、健康に暮らすことを願っている民族とも言えます。

人間は十人十色というように、一人一人皆違います。生まれも違えば、家族も違います。もちろん性格も能力も違います。

しかし、大切なのは「あきらめない」「努力すること。また、「うそをつかずに正直に向き合う」ことではないでしょうか。「あきらめなければ」チャンスはあります。

お天道様は、いつも空から私たちを見てくれています。すべての人に平等に暖かさを与えてくれます。すべての人に明るい日差しを与えてくれます。

私たちは、一人一人違いますから、同じ事をしていてもスピードも違えば、結果も違います。でも、お天道様はすべてを見てくれています。

「悪いことをしてはいけない」「人が見ていなければいい」「うそついてはいけない」「人に迷惑をかけない」このようなことを昔の人は言いたかったのではないかと思います。

私が好きな言葉の一つに「いつも誰かが見てござる」というものがあります。妻の話を聞きながら、息子の教育とともに、自分自身も反省した出来事でした。